

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅳ (食事・排泄)
講師名	小林 真弓	開講年次	1 年次 第 1 学期
単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)		
授業概要 * 講師からのメッセージ	食べて排泄することは、生命維持のため不可欠であるとともに誰もが営む日常的な行為です。なんらかの原因により食行動や排泄行動が自力でできなくなった患者の力を最大限に引き出す援助ができるように、アセスメントの視点と援助の実際を学びましょう。		
目的：食事、排泄の意義について理解し対象への援助方法を習得する 目標：1. 食生活及び排泄への援助の意義を理解できる 2. 食事の援助技術を習得できる 3. 排泄の援助技術を習得できる			
回	授 業 内 容		
1 【講義】	1. 食事援助技術 1) 食事援助の基礎知識 (1) 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント ①栄養状態 ②摂食・嚥下能力 ③摂食行動		
2 【講義】	1. 食事援助技術 1) 食事援助の基礎知識 (2) 医療施設で提供される食事の種類と形態 2) 食事摂取の介助 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際(嚥下障害のない患者)		
3 【演習】	食事介助(嚥下障害のない患者)の方法(環境調整・セッティングを含む)＜演習＞		
4 【講義・演習】	3) 非経口的栄養摂取の援助 (1) 経管栄養法 (2) 中心静脈栄養法 経管栄養法(モデルを用いた経鼻カテーテル挿入・経管栄養注入・経鼻カテーテル管理)		
5・6 【演習】	経管栄養法 ＜習得度確認＞ ・モデルを用いた経鼻カテーテル挿入 ・経鼻カテーテルの固定 ・経管栄養注入(胃泡音の確認)		
7 【講義】	2. 排泄援助技術 1) 自然排尿および自然排便の基礎知識 (1) 排泄の意義		
	2. 排泄援助技術 1) 自然排尿および自然排便の基礎知識 (2) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム (3) 患者の状態に応じた援助を決定するためのアセスメント		
8 【講義】	2) 自然排尿および自然排便の介助の実際 (1) トイレにおける排泄介助 (2) 床上排泄援助 (3) おむつによる排泄援助 (4) 陰部の清潔(陰部洗浄)		
9 【演習】	ポータブルトイレへの移乗 尿器・便器を用いた排泄援助 ＜演習＞		
10 【講義】	3) 導尿 (1) 一時的導尿 (2) 持続的導尿		
11・12 【演習】	一時的導尿 持続的導尿 ＜演習＞		

13【講義】	4) 排便を促す援助 (1) 排便を促す援助の基礎知識 (2) 浣腸（グリセリン浣腸） (3) 摘便
14【演習】	浣腸、摘便　＜演習＞
15	終了試験（食事 45 分、排泄 45 分）
授業方法	講義、演習、デモンストレーション
評価方法	技術習得度確認（20％）筆記試験（80％）
テキスト	医学書院：系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ ＜参考図書＞ 学研：看護技術プラクティス 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ・Ⅱ講義　演習